関西学院大学神学部ブックレット 16

キリスト教の看取り・送り

第 57 回神学セミナー

関西学院大学神学部◎編

中道基夫（関西学院院長・関西学院大学神学部教授）、
汐碇直美（日本基督教団奈良教会牧師、淀川キリスト教病院チャプレン）、
高見晴彦（株式会社シャローム代表取締役）、**小野留緒記**（株式会社シャローム職員）、
森本典子（関西学院大学神学部専任講師）、**井上 智**（関西学院大学神学部助教）、
岸本光子（大阪暁明館病院伝道所牧師、同病院 チャプレン）、**宮岡真紀子**（日本基督教団北千里教会牧師）

牧会における重要な役目のひとつである「看取り」。教会に任された業でもある「送り」。古から続いてきた教会の営みを、周死期のケア、家族・遺族へのケア、葬儀などさまざまな視点から、ポストコロナの日本社会における、「看取り」と「送り」をもう一度考える。同大教授陣のほか、第一線で人々の「死」に向き合ってきた牧師、病院チャプレン、葬儀社職員、教誨師たちの講演を収録。

目　次

主題講演「牧会の課題としての周死期ケア」（中道基夫）
現場報告「生から死へのグラデーションを、共に歩む」（汐碇直美）
現場報告「あとは、やっておきますから」（高見晴彦、小野留緒記））
神学講演「寄り添いを超える ディアコニアの視点から考える看取り・送り」（森本典子）
シンポジウム「看取りと送り— それぞれの立場から」（井上智、岸本光子、宮岡真紀子）

A5判・並製・102頁、定価1,650円（本体1,500円+税）　ISBN978-4-87395-830-9　C0016（日キ販）

◆2024年2月の新刊　日本キリスト教団出版局

『ヨブ記注解』の著者が、ヨブ記の読み方をやさしく解きあかす！

ヨブ記を読もう

2024年
2月20日
刊行予定

苦難から自由へ

並木浩一（なみきこういち） 著

1935年生まれ。国際基督教大学卒業、東京教育大学大学院博士課程単位取得。現在、国際基督教大学名誉教授。元東京神学大学非常勤講師。1989～97年、2001～2005年、日本旧約学会会長。

苦難と悪の問題について答えを求め、ヨブ記を読んだ人は多い。あまりの難しさに読み通せなかった人、読み通してますます混乱した人はもっと多い。本書は難解なテクストの背後にある思考を丹念に解きあかす。これさえあればヨブ記は読み通せる！

四六判・並製・224頁・定価2,640円（本体2,400円＋税）
ISBN978-4-8184-1155-5　C0016

目次

一 主が与え、主が取り去りたもう
二 滅びよ、私が生まれたその日は
三 私の憤りをしっかりと測ってほしい
四 だが、私は知っている、私を贖う者は生きたもう
五 わが息の絶えるまで、私は自己の義を主張する
六 ここに私の署名がある、全能者は私に答えよ
七 ヨブよ、注意して私に聞け、沈黙せよ、私が語る
八 あなたに何と返答できましょう
九 私は塵灰であることについて考え直します
十 わが僕ヨブは確かなことを語った

『ヨブ記　並木浩一訳』を出版局ホームページで公開！

本書の刊行にあわせて、最新の『ヨブ記　並木浩一訳』をPDF形式で出版局ホームページにて提供いたします。また、ご希望に応じて後日冊子版も用意する予定です。

【好評発売中】『ヨブ記注解』並木浩一　定価6,600円

◆2024年2月の新刊　日本キリスト教団出版局

南山大学学術叢書

文脈の中のアフォリズム

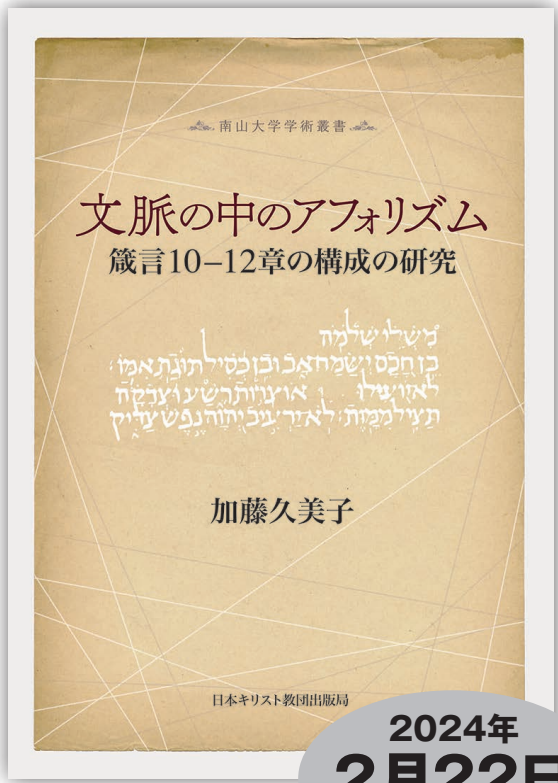
箴言10–12章の構成の研究

加藤久美子（かとうくみこ）著

1965年東京生まれ。東京大学文学部卒業、同大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。現在、南山大学人文学部キリスト教学科准教授（旧約学、聖書ヘブライ語、宗教学）。

旧約聖書の『箴言』の第二部分にあたる10章1節～22章16節。そこで展開されているのは、通常理解されるような単純な個人の応報思想ではないことを、構文や語形の綿密な吟味や考察から明らかにした上で、その構造や統一性を示す。著者の博士論文の書籍化。

A5判・上製・352頁・定価6,600円（本体6,000円＋税）
ISBN978-4-8184-1157-9　C3016



2024年
2月22日
刊行予定

目次

序　論
第1章　箴言の本文、最終形態、編纂
第2章　詞の意味ある配列を前提としない研究
第3章　「行為－結果－連関」と宇宙秩序
第4章　聖書ヘブライ詩の並行法
第5章　差異を伴う反復
第6章　箴言第2部分における構成手法と構造
第7章　箴言10–12章の翻訳
第8章　箴言10–12章の構成
結論と展望

◆2024年2月の新刊　　日本キリスト教団出版局

長年、遠藤周作を研究してきた山根道公による作家・作品探究、全3巻完結！

遠藤周作探究 全3巻 最終回配本

Ⅲ 遠藤周作の文学とキリスト教

2024年
2月22日
刊行予定

山根道公（やまねみちひろ） 著

1960年、岡山県に生まれる。早稲田大学第一文学部卒業、立教大学大学院修了。文学博士。ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所教授。遠藤周作学会代表。『遠藤周作文学全集』全15巻解題及び年譜、『井上洋治著作選集』全11巻の編者及び解題を担当。著書『遠藤周作と井上洋治——日本に根づくキリスト教を求めた同志』ほか。1986年より井上洋治神父とともに「風の家」運動を行い、現在もその機関誌「風（プネウマ）」を発行する風編集室（https://www.kazehensyuusitu.jp）代表。

遠藤周作における聖書理解、どのようにキリスト教を日本に根付かせようとしたのか、吉満義彦や井上洋治が彼に与えた影響、幾度にわたる彼の闘病経験が『沈黙』をはじめとする作品にどのように反映されているか等を吟味する。遠藤作品への理解を深める一冊。

A5判・上製・352頁・定価4,180円（本体3,800円＋税）　ISBN978-4-8184-1156-2　C0095

【シリーズ発売中】
『Ⅰ 遠藤周作　その人生と「沈黙」の真実』定価4,840円
『Ⅱ 遠藤周作「深い河」を読む——マザー・テレサ、宮沢賢治と響きあう世界』定価3,520円

買切案内 2024年3月6日オンデマンド化　日本キリスト教団出版局

「日本の説教」シリーズの品切れタイトルを待望のオンデマンド化！

日本の説教8　高倉徳太郎

池田 伯（いけだ あきら） 解説

神学的な枠組みをもち、自らの信仰的実存の深淵から語ることによって、聴く者を深い共感へと招き、福音信仰の確立・教会形成を促すとともに、時代や文化の救い・潔めへの射程をもつ。「みさかえはただ神にこそ」の叫びは、読む者にいのちと力をもって迫ってくる。説教20篇を収録。

四六判・並製・262頁・定価3,960円（本体3,600円＋税）

ISBN978-4-8184-5129-2　C1016

目次

I
キリストと我
贖罪の意義
赦罪と人生
神の知遇
恩寵の深み

II
恩寵と召命
忠なる僕
十字架を中心としたる出処進退
最悪より最善へ
祈祷の洗浄

III
幻と必然
神の国と教会
聖戦
聖霊に満ちたる生活
危機と決断

IV
主の僕たることの光栄
恩寵と受苦
王および祭司としてのキリスト
一日即全生
来りたもう主を待つ

解説……池田 伯

キリスト教信仰

キリスト教教理入門

コリン・E.ガントン❖著　柳田洋夫❖訳

現代における三位一体論的神学

カール・バルトの神学を継承しながら、その聖霊論の不十分さを指摘し、克服しようとしたガントン。著者の教義学の構想を知ることができる唯一の書。古代教父、宗教改革者、近現代の神学者たちとの堅実な対話から生まれた、キリスト教教理の最良の入門書。

「本書のタイトル『キリスト教信仰』(The Christian Faith)は、序文に記されているように、F.シュライアマハーの著作の英訳の表題に重なるものです。ガントンは、シュライアマハーが後のキリスト教神学の道備えをしたとして高く評価しつつも、その、信仰論における客観面の欠如、不可知論的な〈経験〉理解、また、それに伴う様態論的な神理解を批判しています。それは、キリスト教信仰の真実性を論証し、神をあくまでも三位一体の神としてとらえるという、本書をはじめとするガントンの神学全体を貫く課題ゆえのものでもありました」。

(「訳者解説・あとがき」より)

❖著者紹介　コリン・E. ガントン (Colin E. Gunton)　1941年生まれ。1969年からロンドン大学キングス・カレッジで組織神学を教える。著書　『キリストと創造』(須田拓訳、教文館、2003年)、『説教によるキリスト教教理』(柳田洋夫訳、教文館、2007年) ほか。

❖訳者紹介　柳田洋夫(やなぎだ・ひろお)　1967年生まれ。現在、聖学院大学人文学部教授。訳書　ラインホールド・ニーバー『人間の運命』『人間の本性』(共訳、聖学院大学出版会、2017年、2019年)、『悲劇を越えて』(教文館、2022年) ほか。

A5判・並製・320頁・定価4,070円(本体3,700円+税)　ISBN978-4-7642-7480-8　C3016

ナジアンゾスのグレゴリオスの聖霊論

田中従子 著

聖霊は「神」なのか?

キリスト教信仰の核心でありながら、聖書に明言されていない、聖霊の神性――
この難問に、グレゴリオスはいかに向き合ったのか?
神論をめぐる論争の時代、正統な三位一体論の確立に不可欠な教父の神学に迫る、貴重な研究。

［目次］

序

第I部　グレゴリオスの生涯とその時代

第1章 アレイオス論争通史／第2章 グレゴリオスの生涯／第3章 グレゴリオスの著作／第4章 アレイオス論争研究史／第5章 ナジアンゾスのグレゴリオス研究史

第II部　神知識

第6章 Θεός の定義／第7章 二つの神知識／第8章 神知識の可能性／第9章 神知識と救済

第III部　神の啓示

第10章 神のイニシアティブ／第11章 バシレイオスと教会の伝統／第12章 グレゴリオスにおける神との生ける交わり

第IV 部　聖書と三一の神

第13章 聖書の沈黙／第14章 グレゴリオスとバシレイオスにとっての聖書／第15章 バシレイオスと神の神的霊／第16章 グレゴリオスと聖霊なる神

第V 部　結論

第17章 結論／第18章 グレゴリオスの聖霊論からの問いかけ

著者紹介　**田中従子**　2004年ムーディー聖書学院卒業。2009年東京神学大学大学院博士課程前期修了（MDiv.）。2012年トロント大学聖ミカエル・カレッジ修士課程修了（ThM.）。2022年東京神学大学より博士号取得（ThD.）。日本基督教団静岡草深教会伝道師、伊東教会牧師、自由が丘教会牧師を経て、現在無任所。
訳書　C. スティッド『古代キリスト教と哲学』（共訳、教文館、2015年）。

A5判・上製・310頁・定価4,950円（本体4,500円+税）ISBN978-4-7642-7481-5 C3016

1月10日(水)発売予定

サンパウロ 新刊案内

「今日」というチャンスを生きる

あなたに届くイエスの福音

レナト・フィリピーニ 著

本書は、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書の中から、著者が選んだ80か所について解説したものである。一人ひとりの人生が、数えきれない「今日」という毎日の連続によって築かれていくことを念頭に、毎日を新たに迎えて生きていくための福音（よい便り）を読者に届けたい、との思いで書かれている。「イエスの福音があなたの生きる力となり、あなたの人生に希望と光を与えることを心から祈ります。」とは、著者の心からの願いである。

著者略歴

レナト・フィリピーニ（Renato Filippini）
1970年　北イタリア・ゲーディ出身
1990年　聖ザベリオ宣教会入会
1992年　アメリカ・シカゴの Catholic Theological Union 入学（神学専攻）
1997年　聖書学修士号取得、司祭叙階
同年に来日後、鹿児島教区、福岡教区、高松教区で司牧
2017年　ローマ教皇庁立サレジオ大学大学院にて信仰教育学専攻（修士）
現　在　福岡市、大濠カトリック会館宣教養成センター長

著書

『イエスの教えてくれた祈り―「主の祈り」を現代的視点から』（カルロ・マリア・マルティーニ著／篠崎榮共訳）
『イエスとの出会い―その喜びを味わう Lectio divina Series 1』
『詩編を祈る―人間の経験から生まれる詩 Lectio divina Series 2』
『日々の暮らしの中で―信仰を育て実践する Lectio divina Series 3』
『現場から現場へ―宣教司牧の気づき』〈以上、教友社〉
『聖週間を生きる―毎日の黙想：受難と復活節の人物とともに』〈女子パウロ会〉
『主日の福音を生きる（C年）―日々の生活をみことばとともに―』
『主日の福音を生きる（B年）―日々の生活をみことばとともに―』
『主日の福音を生きる（A年）―日々の生活をみことばとともに―』（水がめを運ぶ七人の信徒共著）〈以上、サンパウロ〉

• 小B6（縦174mm×横112mm）• 96頁 • 並製 • 定価 1,320円（本体 1,200+税） • ISBN978-4-8056-2105-9　C0016

1月26日(金)発売予定

サンパウロ 新刊案内

信仰万華鏡（カレイドスコープ）

——カトリック時代エッセー——

川村　信三　著

コロナ禍による 3 年間の活動自粛の中、歴史学者であり、カトリック司祭である著者は、何を思い、何を展望したのか。学問的視座に基づく緻密な洞察と、信仰に裏打ちされた深い思索の光は、殉教、宣教、異文化受容、エキュメニズム（教会一致）運動、宗教対話、科学と信仰、メディア、そして平和と、「万華鏡」のごとく煌めきを見せて広がって行く。バチカン図書館に眠る和紙に書かれた 17 世紀の古文書に、最新の科学技術の光を当て解明を図るなど、近年マスコミからも注目される上智大学教授、川村信三神父の初の時代エッセーである。本書は、週刊「カトリック新聞」に連載された「カトリック時代エッセー」に手を加えたものである。

著者略歴

川村 信三（かわむら しんぞう）

イエズス会司祭。上智大学文学部史学科教授。上智大学キリシタン文庫長。キリシタン文化研究会会長。日本カトリック司教協議会列聖推進委員会顧問。1958年生まれ。1983年、イエズス会入会。1992年、司祭叙階。1999 年、米国ジョージタウン大学より歴史学の博士号（Ph.D.）取得。著書に『キリシタン信徒組織の誕生と変容』（教文館）、『戦国宗教社会＝思想史―キリシタン事例からの考察』（知泉書館）、『二十一世紀キリスト教読本』（教友社）、『時のしるしを読み解いてー現代キリスト者の課題』（ドン・ボスコ社）、『キリシタン大名高山右近とその時代』（教文館）、共著に『超領域交流史の試み』（SUP 上智大学出版）、『キリスト教と寛容―中近世の日本とヨーロッパ』（慶應義塾大学出版会）、『ヨーロッパ中近世の兄弟会』（東京大学出版会）など多数。近年、東京大学の研究グループとの共同作業による、キリシタン時代の手書き書簡などの古文書を最新の科学技術を用いて多方面から調査・研究に従事。さらに、「日本・バチカンプロジェクト」（角川文化振興財団主催）の研究部門を統括。

• B6 • 316頁 • 並製 • 定価 1,980円（本体 1,800+税） • ISBN978-4-8056-3924-5　C0016

病と老いと死、とその後の「いのち」

東京の新宿区にある、カトリック系の真生会館で行われた6つの講話シリーズを単行本化。

各シリーズのテーマは、「いのち」、「死を想う」、「大きな力に操られず、流されずに、自分らしく生きるために」、「わたしたちの生の営みから喜びや希望を奪い取ってしまう闇」、「キリスト教が理解する終末」(伝統的な教義の終末論と別視点で)、そして最後のテーマは「「聖霊」。

「いのち」を危機にさらす、現代のさまざまな問題・深い闇を、ときに具体例も挙げて鋭く指摘。オンリーワンとしての一人ひとりが、存在レベルで望む、究極で共通のことも述べる。その願望が満たされないことが、諸問題・闇と深い関係にあることも説く。

著 森　一弘

1938年横浜生まれ。1967年司祭叙階。1985年司教叙階。2000年まで東京大司教区補佐司教を務める。2023年死去。

著書に『人生を支え、老いを照らす光』『あなたにとって神とは?』『世界と日本と民主主義のありようを考える』『これからの日本のゆくえ』『人はみな、オンリーワン』(女子パウロ会)、『教皇フランシスコ ―教会の変革と現代世界への挑戦―』(サンパウロ)、『「今を生きる」そのために』(扶桑社)他がある。

危険にさらされている「いのち」についての考察
1「命」と「いのち」の違い　2「いのち」には設計者がいる　3 生きているものは、すべてオンリーワン
4 オンリーワンとしての「いのち」を脅かすもの

死のかなたに何があるのか、虚無か、いのちの輝きか
1 社会の営みから神が消え去ってしまった？　2 死を自分の人生に取り込んでしまう人々
3 なぜ、死を選び、決断するのか

大きな力に操られず、流されずに、自分らしく生きるために
1「流される」のメカニズム　2「操られる」のメカニズム　3 操られてしまう(しまった)人　4 キリストの生き様

キリストの十字架を見つめて　闇の中に光を見いだしていくために ―闇は、人生の一部、旅の道連れ
1 闇の冷酷さ、残酷さ　2 人間としての根底を揺さぶる闇　3 人間の幸せへの歩みを妨げ、深い闇を与えるものは……

病と老いと死、とその後の「いのち」 ―キリスト教が理解する終末
1 死についての考察　―カトリック教会の伝統の中での終末の受け取り方

聖霊について
1「霊」について理解することの難しさ　2 聖書の世界の「ルーアッハ」の意味とその宗教的発展

定価1,540円（1,400円＋税）B6判　196頁　並製　ISBN978-4-7896-0839-8　C0016

2024年7月に一新される日本紙幣
新しい顔である津田梅子（つだうめこ）の生涯に注目する一冊！

キリスト教歴史人物ビジュアルブック
「旅するシリーズ」第4巻

梅子と旅する。日本の女子教育のパイオニア

人はなぜ学び、どう生かし、何のために生きるのか。女子高等教育に生涯を捧げた梅子が、今を生きる私たちに残したものを探す旅へ。新五千円札の顔・津田梅子の生涯とスピリットを取り上げる。

フォレストブックス編集室 編著
四六変型判 96頁
定価1,650円（本体1,500円＋税）
ISBN978-4-264-04478-9 C0023
いのちのことば社　フォレストブックス
卸コード 17055

津田梅子（1864～1929）
1871（明治4）年、日本初の女子留学生の1人として6歳の時に岩倉使節団と共に渡米。ホストファミリー・ランマン夫妻のもとで愛情と豊かな教育を受けて成長。留学中にキリスト教の洗礼を受ける。17歳で帰国。カルチャーギャップに悩みながら女子教育の現場に立つなかで、日本における女子高等教育の必要を痛感する。再留学を経て、1900（明治33）年、私塾「女子英学塾」（後の津田塾大学）を開校。専門知識を学ぶだけでなく、人としてオールラウンドであれ——梅子の言葉と信念は現在も津田塾大学の教育精神として受け継がれ、優れた人材を輩出している。

梅子の留学生時代
津田塾チャペル物語
人物コラム、インタビュー
津田梅子年表 ets...

写真とイラストで目にも楽しい、旅する一冊！

罪洗われ、待ち望む

神に忠実でありたいと願う ゲイ・クリスチャン 心の旅

ウェスレー・ヒル 著　岡谷和作 訳

ゲイ・クリスチャンとして神に忠実に生きる“サイドB”という選択

同性愛を自らのアイデンティティとして肯定しつつ、神に忠実でありたいと願うゲイ・クリスチャンの著者。独身という道を選択する“サイドB”の立場を代表する神学者の葛藤と決断への心の旅。

もくじ

まえがき　ゲイ・クリスチャンに託された賜物　藤橋 仰
日本語版への序文　ウェスレー・ヒル
前奏　罪洗われ、待ち望む　／　第１章　物語に形作られる人生
間奏　美しい傷跡　／　第２章　孤独の終焉
後奏　汝は稲妻、そして愛　／　第３章　神が与える栄誉
罪洗われ、今なお待ち望む　〈補遺〉同性愛に対する福音派のアプローチ
訳者あとがき　破れ口に立つヒルの決断

四六判 256頁 定価2,200円（本体2,000円＋税）
ISBN978-4-264-04479-6 C0016
いのちのことば社　卸コード 29615

著者プロフィール

ウェスレー・ヒル（Wesley Hill）

保守的な南部バプテスト教会の出身で現在は聖公会司祭、米国・ウェスタン神学校新約学准教授。英国・ダラム神学校で Ph.D.（新約学）取得。スピリチュアル・フレンドシップ、リヴォイス・カンファレンスなどサイド B 当事者の運動を主導している。